

授業科目名	哲 学			担当教員	田中 康司	
開講年次	1 年前期	セメスター	1	時間数(単位数)	15 (1)	
必修選択	選択	授業形態	講義	使用教室		
授業の目的	現代の保健医療に関連する問題を具体的に取り上げ、哲学の基本的な概念と方法で人間理解にどのようなアプローチができるかを学ぶ。					
到達目標	・ 現代の医療に関わる様々な問題が人間存在についての哲学的問いと密接に関連していることを理解することができる。 ・ 人間存在についての理解を深めることができる。 ・ 生と死の問題について自分で考えることができる。					
ディプロマポリシーにおける科目の位置づけ	この科目は〈リベラルアーツ・専門基礎科目〉であり、「人間」「環境」「健康」「国際」の4つの主要概念の「人間」に位置付けられている。人間理解のための科目であり、「人間の尊厳と権利を擁護する力」の育成につながる。また、哲学をまなぶことで、個人的で卑近な問題から、グローバルな保健医療問題に至るまで、さまざまな問題に対して自分なりの答えを見つける重要な手掛かりを得ることができる。					
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力	
	○					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者	
1	哲学と医療の関係	講義	予習：哲学という言葉の意味を調べる。 復習：医療の現場に哲学的問いが立ち現れる理由を考える。	90 分	田中	
2	なぜ安楽死が問題となるのか	講義	予習：安楽死の種類を調べて整理する。 復習：安楽死の問題性を理解できているかを確認する。	90 分	田中	
3	安楽死―患者の最善の利益	講義	予習：QOL と SOL について調べる。 復習：自らの死生観を問い直す。	90 分	田中	
4	安楽死―患者の自己決定権	講義	予習：自分の身体は自分の所有物かを考察する。 復習：自分の身体を自由にしてよいかを考察する。	90 分	田中	
5	安楽死―作為・不作為説	講義	予習：殺すことと死なせることに道徳的違いはあるかを考察する。 復習：消極的安楽死と積極的安楽死に道徳的違いがあるか検討する。	90 分	田中	
6	安楽死―二重結果説	講義	予習：二重結果説について調べる。 復習：二重結果説を安楽死の問題に適用するとどうなるか考える。	90 分	田中	

7	安楽死の是非	講義	予習：これまでの授業をふまえて安楽死についての自分の考えを整理する。 復習：改めて安楽死に対する自分の立場及びその理由を確認する。	90 分	田中
8	まとめ—死とは何か	講義	予習：死が怖い理由を考える。 復習：死の意味と生の価値を確認する。	90 分	田中
先行履修科目					
テキスト		適宜プリント等を配布する。			
参考文献		Hope, T. : Medical Ethics, 2004, 児玉聡・赤林朗訳：医療倫理。岩波書店, 2007.			
評価方法		定期試験 (70%) および授業への参加態度 (30%) によって評価する。			